

2021年度 シラバス

科目名	文化論	区分	必修	授業時数	40時間	対象学年	1年
担当教員	東	実務経験	無				
学修内容	日本の理容業・美容業の歴史 ファッション文化史の日本編（古代～現代まで）						
到達目標	美容師国家試験合格および前後期筆記試験で60点以上必達						
授業の方法	授業は講義を中心に行う。教科書、プリント、参考資料を解説。 髪形や服装はその図を描きながら具体的にイメージできるように指導する。						
成績評価の方法と基準	前後期各1回の筆記試験にて評価を行う。試験は100点方式をもって採点し、60点以上を合格とする。 成績評価はA, B, C, Dで表し、A, B, Cまでを合格として履修を認定する。Dは再試験を受けなければならない。						
授業時間外に必要な学修の具体的内容	日常生活の中で常にファッションに対する意識を高め、関連するニュースやイベントなどにも関心を持ち、博物館や美術館、イベントなどに足を運び知識を深める。						
使用教材	教科書（公益社団法人 日本理容美容教育センター）、プリント、スケッチブック						
履修に当たっての留意点	授業中に配布されるプリントを必ず提出する・ファイルに整理して保存する						
各コマにおける授業計画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	総論	理容・美容の意味と重要性					
第2回		理容業・美容業の発生					
第3回	日本の理容業・美容業の歴史	江戸時代の理容業・美容業					
第4回		江戸時代の理容業・美容業、練習問題					
第5回	日本の古代の歴史						
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回	日本の中世の歴史	平安時代中期以降、鎌倉・室町時代					
第12回							
第13回							
第14回	日本の近世Ⅰの歴史	戦国末・安土桃山時代					
第15回							
第16回							
第17回	日本の近世Ⅱの歴史	江戸時代前期（髪型）					
第18回							
第19回							
第20回							

2021年度 シラバス

科目名	文化論	区分	必修	授業時数	40時間	対象学年	1年
担当教員	東	実務経験	無				
学修内容	日本の理容業・美容業の歴史 ファッション文化史の日本編（古代～現代まで）						
到達目標	美容師国家試験合格および前後期筆記試験で60点以上必達						
授業の方法	授業は講義を中心に行う。教科書、プリント、参考資料を解説。 髪形や服装はその図を描きながら具体的にイメージできるように指導する。						
成績評価の方法と基準	前後期各1回の筆記試験にて評価を行う。試験は100点方式をもって採点し、60点以上を合格とする。 成績評価はA, B, C, Dで表し、A, B, Cまでを合格として履修を認定する。Dは再試験を受けなければならない。						
授業時間外に必要な学修の具体的内容	日常生活の中で常にファッションに対する意識を高め、関連するニュースやイベントなどにも関心を持ち、博物館や美術館、イベントなどに足を運び知識を深める。						
使用教材	教科書（公益社団法人 日本理容美容教育センター）、プリント、スケッチブック						
履修に当たっての留意点	授業中に配布されるプリントを必ず提出する・ファイルに整理して保存する						
各コマにおける授業計画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第21回	日本の近世Ⅱの歴史	江戸時代中期（髪型）					
第22回							
第23回		江戸時代後期（髪型）					
第24回							
第25回							
第26回							
第27回		江戸時代の化粧と服装					
第28回							
第29回	日本の近代の歴史	明治時代					
第30回							
第31回							
第32回		大正時代					
第33回							
第34回							
第35回	昭和時代（～1945年）						
第36回							
第37回							
第38回	近代の理容業・美容業の歴史	近代の理容業・美容業の発展					
第39回							
第40回		練習問題（国家試験ワークブックより）					

2021年度 シラバス

科目名	文化論	区分	必修	授業時数	20時間	対象学年	2年
担当教員	藤田	実務経験	有			コース	全コース
学修内容	美容の歴史とファッションの歴史を学ぶ						
到達目標	美容師国家試験合格および前後期筆記試験で60点以上必達						
授業の方法	授業は主に講義にて行う。教科書、対策プリント、パワーポイントを活用し、国家試験の対策と知識の構築を行う						
成績評価の方法と基準	前後期各1回の筆記試験にて評価を行う。試験は100点方式をもって採点し、60点以上を合格とする。成績評価はA, B, C, Dで表し、A, B, Cまでを合格として履修を認定する。Dは再試験を受けなければならない。						
授業時間外に必要な学修の具体的内容	ファッションや歴史的な絵画から、美容を学び感性を磨く。美容に関して敏感になる。						
使用教材	教科書（公益社団法人 日本理容美容教育センター）、対策プリント、パワーポイント						
実務経験に基づく授業内容	美容師の経験を生かし、現代の美容の歴史やファッションの歴史を身近に感じてもらい、かつ今後の歴史を作る担い手となる美容師になれるように、何事にも敏感に反応できる感性を育て、楽しく学ぶことの大切さなどを授業で感じてもらえる授業を行う。 美容の歴史を学び、これからの美容師人生において知っておくべき知識、またどのように興味を持ち生かしていくかを学生自身に気づいてもらい、自ら学ぶ楽しさを実感してもらうことに重点をおき歴史に触れていく。						
履修に当たっての留意点	歴史の背景と美容、ファッションを理解するように授業を楽しむ						
各コマにおける授業計画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	現代 I	1945年～1950年代の髪型				日本編	
第2回	現代 I	1945年～1950年代の服装、化粧				日本編	
第3回	現代 II	1960年～1970年代の髪型				日本編	
第4回	現代 II	1960年～1970年代の服装、化粧				日本編	
第5回	現代 III	1980年～1990年代の髪型				日本編	
第6回	現代 III	1980年～1990年代の服装、化粧				日本編	
第7回	現代 IV	2000年代以降の髪型、服装、化粧				日本編	
第8回	現代 I	1910年～1920年代の髪型、服装、化粧				西洋編	
第9回	現代 II	1930年～1940年代の髪型、服装、化粧				西洋編	
第10回	現代 III	1940年代後半～1950年代の髪型、化粧				西洋編	
第11回	現代 III	1940年代後半～1950年代の服装				西洋編	
第12回	現代 IV・V	1960年代・1970年代の服装、髪型				西洋編	
第13回	現代 VI	1980年代の服装、髪型				西洋編	
第14回	現代 VII	1990年代～2010年の服装				西洋編	
第15回	礼装	和装の礼装					
第16回	礼装	洋装の礼装					
第17回	まとめ	総論～日本の理容業、美容業の歴史					
第18回	まとめ	ファッション文化史～日本編～					
第19回	まとめ	ファッション文化史～西洋編～					
第20回	まとめ	礼装の種類					